

第8回宇美町総合計画審議会 会議録（要旨）

日時：2023（令和5）年1月17日

場所：宇美町役場2階 大会議室左

- | |
|---|
| 1. 開 会 |
| 2. 会長あいさつ |
| 3. 議題
(1) パブリックコメントの結果について
(2) 重点方針について
(3) 総括 |
| 4. 閉 会 |

1. ～ 2. 割愛

3. 議題

- (1) パブリックコメントの結果について
- 議題について、事務局より説明願う。（会長）
 - ➔ 会議資料に基づき説明（事務局）
 - ただ今の説明について、ご意見・ご質問はあるか。（会長）
（意見なし）
 - パブリックコメントでの意見が17件ということで件数がやや少ない印象ではあるが、お寄せいただいた意見は建設的な意見が多い。各課で内容を共有頂き、政策運営に生かしていただきたい（会長）
- (2) 重点方針について
- 続いて、重点方針について事務局より説明願う。（会長）
 - ➔ 会議資料に基づき説明（事務局）
 - 若干補足させていただく。そもそも柱として6つ挙がっている。それぞれ重点的に取り組んでいくということだが、その上に重ね合わせるようにしてこの3つを意識することで、どれを取り組むにあたってこれを意識していきましょうとことと、もう一つはやはり予算編成の時に、そこに関連しているような取り組みについては重点的に予算配分していくというような意味合いも含められているのだろうと私は認識をしている。
委員の皆様からのご意見・ご質問はあるか。（会長）
（意見なし）
 - よろしいか。それでは私から一点だけ。
やはり正直に言って、『このまちが、いい。』 わたしたちの誇り 宇美」といった場合、「こ

のまちでいい」ではなく、「このまちがいい」という時に、例えば、子育てしやすい町の実現といったような、今のところどこでもやっているようなことしか書かれていない印象。本来ならば、重点方針というよりも重点プロジェクトという形で、まさにこの町がいい、子育てしやすい町の具体的なプロジェクトが挙がってくるべきところではある。そこは今回はまだ十分組み立てられていないということで、こういった方針にとどまっているが、ぜひ、「このまちがいい」ということを意識して、単なる方針として意識するだけではなく、具体的にこれをプロジェクトのレベルに高めていくような取り組みをしていただきたいと思っている。

シティプロモーションも同じ。シティプロモーションにももちろん方法はいろいろある。『九州ウォーカー』も片面だけで50万円ほどかかるが、糸島などかなりシティプロモーションにお金を増やしているのは事実である。ただ、単にお金を費やせばいけるかというところではなく、やはりシティプロモーションをしていくだけの独自性がなければいけない。「このまちが、いい」ということと重なるが、この町の魅力自体を高めていかないと、シティプロモーションもどれだけお金をかけてもうまくいかないだろうと思っている。やはり、誰もがそこを訪れたいと思えるようなワクワク感、面白さがなければいけない。

先週東彼杵という長崎の町にヒアリングに行ってきたが、雑貨店や古着屋など、いろいろな店が今20店舗、一気に起業し始めて、町全体が非常に面白い町になっていて、福岡から1時間半かけて沢山の人が来ている。やはり、そのような地域づくりと連動していくということから言うと、このシティプロモーションの推進というものは単に手段としてのシティプロモーションを進めていくだけではなく、魅力的な地域づくりをしていくということとセットでなければいけないということ意識していただいたほうがいいかと思っている。(会長)

(3) 総括

- 特に意見が無ければ、次の議題へ進みたいと思う。

それでは、今後のスケジュールと総括について、事務局より説明願う。(会長)

→ 会議資料に基づき説明(事務局)

- まずスケジュールについてだが、2月9日に町長に素案を答申することとしているが、その前に私と事務局とで最終的な調整を加えたものを委員の皆様にご確認いただき、答申という工程をとらせていただきたい。

また、この後の時間は総括ということで、委員の皆様としてはご意見頂く最後の機会ということになる。計画案をご覧いただいたうえで、ご意見があれば伺いたい。(会長)

- まず写真についてだが、例えば基本目標の3、ページで言うと40ページにあるのは1年生の交通安全教室の写真であろうが、「災害に強く」といった場合に、やはり地元で一番頑張っているのは消防団であると思う。2011年3月11日に東北で震災があって、その後校長会で視察に行った。あの時に消防団の方がほとんど亡くなっている。水門を閉めるために津波に向かって水門を閉めに行く。それから、民生委員の方々も亡くなった。そういった影の活動をこういった写真で出す必要があると思う。民生委員の方の面談でもいいし、消防団の活動など、それを出すことによって宇美町は災害に強い町を作ろうとしているというアピールをする場所かなと思う。

そういった意味で、他のページでもそうだが写真がほんと1枚貼ってあるだけに見えるが、広報でたくさんの写真をもっているだろう。日常の皆さんの活動が分かるような写真を増やして、魅力ある町ということでここで使っていくのがいいかと思った。

それから 22 ページの基本目標は教育関係だが、ここについても学校では様々な教育活動をしているので、この 1 枚だけではなくいろいろな活動を見せるといい。そして、そのことが子育てに優しい町ということになると思う。

二点目は、SDGs の取り扱いである。SDGs という運動がなくても、恐らく町の行政の方も、また、議会の皆さんもこういった視点を持って今まで活動してきたと思う。したがって、SDGs があるからこういったことをしているという見せ方ではなく、SDGs も町の行政や運営については意識している見せ方をする。つまり、トーンを落としたほうがいいと思う。私の感想だが、外圧によって町の運営が変わるのではなく自分達でやろうということを見せていくのがこういった計画だと思う。SDGs を否定するものではないが、ただ、トーンを下げた町の主体性を出すべきだと思う。(委員)

- 二点目についてだが、見せ方の問題かなという感じもしている。逆に、今の見せ方が見えるかという、よく分からない。場合によっては、一番最後に付録としてそれぞれの計画がどこにどう対応してるかということを見せてもいいのではないかな。逆に、計画自体には SDGs うんぬんと書かなくてもいいのではないかな。そのような形でワントーン落とすというか、付録的な形で付けていただくということを考えていただいてもいいかなと思った。

私自身がよくなるほどと思ったのが一点目のご指摘である。写真をもう少し意識しないとまずい。例えば、違う箇所の 34 ページで“支えあい「いきいき」と暮らし続ける『元気』をうみ出すまち”とあるが、ここでのこの写真は高齢者の方の写真である。だが、今の地域共生社会というものはむしろごちゃ混ぜというか、高齢者だけが集まって何かをやるのではなく、いろいろな方々が交わり合って幸せな空間を作り上げているということであり、(高齢者だけというのは)昔の福祉のイメージ。

もっと宇美町で暮らすことのウェルビーイング、幸せを感じられるようなものや、本当に影で支えてくださっている方をきちんとピックアップして、こういう人達を大切にしているという思いが伝わるような、1 枚 1 枚の写真を選ぶ時の意識付けをしていただきたい。

22 ページに関しては判断が分かれるが、今の先生のご意見を参考にすると、1 枚だけではなくいろいろなものがあって、ある種のバラエティに富んでいるということ表現していくこともいいのかもしれない。どのようなレイアウトにしていくのかという問題があるので単純には言えないが、一つの選択肢としてご考慮いただければと思っている。

紙の質の問題かもしれないが、色合いが 22、23 ページなども黄土色っぽくあまりきれいではない。(会長)

- ➔ まず SDGs については、現在 77 ページに一覧で付けてはいる。先ほど会長からご指摘があったやり方となる。SDGs の見せ方というお話しがあったが、SDGs の見せ方については意見が分かれる。今の時代的には、絶対にこのように載せないといけないという方も一定数いる。その辺りについては内部的に今のご意見を踏まえながら、再度協議をさせていただこうと思っている。また写真については、あくまでも、分かりやすいようにということで調整用に写真等を記載している。また、今貴重なご意見をいただいたので、ご意見を参考にしながら施策を反映した写真をきちんと載せていく。あとは、町をアピールできるようなということも、今後、デザインについても委託業者と調整をしながら進めていきたい。(事務局)

- 先ほど写真についての意見が出たので、私も写真についてぱっと見た感じで感想を述べさせて

いただきたい。これは途中ということで、ぜひ何かの参考になれば聞いていただきたいと思うが、今この写真を見たら、非常に引いた構図の写真が非常に多く、人がたくさん写っているが一人ひとりが小さい。そして、後頭部ばかりで顔が見えない。だから、似たような構図、引きの構図で人の後頭部ばかりが目立つ。そういった似た感じの写真が並んでいるという印象である。肖像権の問題などがあるいろいろな難しいのかもしれないが、やはり表情が見えたほうが私はいいのではないかと思う。もう少し寄った写真も欲しいと思った。

私は 60 ページの写真すごくいいと思う。いわゆる産業と交流ということで、失礼ながらこれは何をしている写真なのかは分からなかったが、何か仕事をされているというとてもいい写真だと思った。デザインをする時に考えていただければと思う。(委員)

- 60 ページのこの写真は本当に雑誌などで出てきそうない写真である。光の加減などもいい。(会長)
- 細かいところになるかと思うが、まず、基本目標 1 ので 27 ページ 6 番のところ、「教職員の働き方改革の更なる推進」とあるが、管理職による指導改善を行ったからといって教職員の負担が軽減されるということはない。学校現場にきちんと人的資援を拡大していく、例えば、ICT 支援員をきちんと配置をする、学習支援員を何人配置するなど…そういうことをきちんとやらないと教職員の負担軽減にはつながらない。これは、計画に明記すべきだと思う。

それと、「部活動の地域移行に関する検討を継続的に実施します」と、何をやろうとしているのか全く見えない。部活動改革というのは学校の中学校の改革の肝になってくる部分である。ぜひここでちゃんと部活動の検討会議をきちんと設置したうえで、どのような姿が求められているのかということ、ここに入れておくべきではないかと思う。

あとは 29 ページ、31 ページもそうだが、指標のところでは言わせていただきたい。これ実感指標で、「生涯学習を行う機会を持つことができた町民の割合」という(指標は)意味不明である。新たにアンケートを取ってやるかもしれないが、これで得られる指標の成果は見えてこない。同じような形で、「運動・スポーツ・文化・芸術活動に触れる機会を持つことができた町民の割合」も意味不明というか、これによって得られる指標で何か具体的なことが分かるのだろうか。その辺りがはっきりしないのが非常に気になる。

また、何回も言っているが、29 ページの「電子書籍の年間貸出件数 10,000 件」では圧倒的に少ない。コストパフォーマンスが全く生かされていない。導入に 2,000 万かけてやったのだから、10,000 件で割ったら 1 冊 2,000 円である。このようなコスパでやっていたのでは、はっきり言って意味がない。これは最低でも 30,000、40,000、50,000 という数字がここに挙がってこない、電子書籍の推進などということは、ほど遠いのではないか。この点は何回も言わせてもらっているし変えるべきではないか。(委員)

- 指標に関しては、私もいろいろ問題があると思っている。今おっしゃったこと以外にも、例えば 27 ページの指標も、全国平均以上というのは果たしてどうなのか。達成しやすい目標を立てて達成できましたということは、やはりよろしくないと思う。あるべき姿をきちんと描いて、達成できなかったとしてもなぜ達成できなかったのかをちゃんと考えて、次の施策につなげていけばいい話。

簡単に達成できることよりも、ちょっと頑張らなければ達成できないくらいの目標を立てなければ意味がないということ、そして、実感指標を客観指標とは別に設けていくということは、そ

れが本当にこの取り組みが意味を持ったということを示す指標でなければいけない。ここももう少しきちんと作らなければいけないのではないかと考えているところであるので、これについては、いったん私と事務局に一任をいただき、再調整させていただいたものを再度皆さまにお見せしてご確認いただくという手続きにさせていただきたいと思うがいかがか。(会長)

(全員承諾)

- 36 ページの現状のところの最初に「地域共生社会」という言葉が出ている。これからの福祉社会の中で、これは非常に大事なことである。ところが、(他の部分を)何回読んでも地域共生社会という言葉が出てきていない。参考資料を読んでも、地域共生社会とはどういうことかということも説明がされていない。

これは国・県が出した資料だが、地域共生社会というものは簡単に言うとどういうことか読んでみたいと思う。資料では、「(地域共生社会とは) 分野ごとの縦割りや支え手・受け手という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体がわが事として参画し、人と人、人と支援が世代や分野を超えて丸ごとつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがいを地域とともに作っていく社会」とある。総合計画の最後の資料の中に、この今読んだような言葉をぜひ入れてほしい。

(委員)

- 36 ページの現状のところにスペースがあるので、ここで地域共生社会、脚注を打って下で説明を加えるということがあってもいいのではないか。

今ご指摘を受けて改めてここを見てみると、実は 2017 年ぐらいか、厚生労働省が地域包括ケアという言い方をしていたものを地域共生社会という言葉に切り替えた。その理由としては、高齢者だけといったイメージが付きまわってしまっている言葉になってしまったからである。地域共生社会というのは、障害がある人もない人も、あるいは老若男女含めて、そして福祉に限らずということを目指しているが、この 37 ページの中身は、どちらかというに従前の地域包括ケアの話になっている。そのため、整合性としてもやや合っていない感じだし、ここの現状のところも、やはり地域共生社会と言いながら実は地域包括ケアシステムの段階での話そのままになってしまっているという問題があるかと思う。

地域共生社会といった場合、以前こちらの場でご紹介したが、地域おせっかい会議のようなものが典型的なものである。つまり高齢者の方々が対象だとして、単に包摂されというだけではなく例えば編み物が得意だと、そのせっかく得意な編み物を皆が共有して生かしてあげようというお節介をして、それが地域の中で役割を持っていく。そういう役割を持っていくために、若い人や障害者も含めて皆がそこに関わっていきながらやっていく。だから福祉に限定されない。したがって、ここの内容は地域包括ケアから地域共生社会に捉え方が変わったということ踏まえた内容にバージョンアップしていただければいいのではないかと思う。(会長)

- 重点方針の 1 が「子育てしやすいまち」となっており、子育ては未来だと思う。未来の展望が起これば、どういった世代であってもやる気が出ると思う。そういった意味で、この基本目標の 1 のところをどう具体化して、誰でも賛同していただけるかということが大事だと思う。時間的にはもうあまりないとは思いますがより具体化して、よその、また宇美町の方も宇美町の教育はいいと思わせるような、もう少し具体的な書き振りが必要だと思う。

前日も言ったと思うけれども、今の父兄は全国学力テストや県外の様子を全部インターネットで見ている。例えば糟屋地区の町の学力も把握しているし、教育の差も把握している。その時に

宇美町を見た時によそと変わらないとなったらやはり移住する人も少ないし、誇りも持てないと思うので、この重点方針の1そして基本目標の1の辺りをよりこう丁寧に修正していただきたいと感じた。(委員)

- ここが中核中の中核という位置付けになるので、もっと個性的でなければいけないということだろう。(会長)

- 10月から教育委員もさせていただくことになり、学校を訪問してショックを受けた。学校の計画はきちんとできているが、その計画どおりに子ども達が進んでいない。先生方は努力しているだろうし計画表のようなものができているが、子ども達との温度差や乖離が非常に大きく感じて、どこに原因があるのかというようなものを考える具体的なプロジェクトや他の例で原因を追求していくなど、具体的なプロジェクト的なことをやりましょうということがこの中で出てこない。

「子育てしやすいまち」というのは、もう日本全国どここの地域の人達からも上がってきている声。あとは、いかに取りこぼすことなく子ども達を丁寧に育てているというところが見えてこないと本当のものにはなっていないので、その文言がどこかで入っていたらいいと思う。(委員)

- おっしゃるとおり全国どこでもこれが中心的になってきている。そういう中で率直に申しあげて、今の計画は、どこでもやっていることを、もっと突出してやっているところと比べて平均的にやるということになっている。客観指標等も、例えば27ページを見ても成績、成績は親としては気にしてしまうのでいいと思うが、それだけだと全然個性的ではない。結局学力だったらもって学力がいいところはたくさんあるわけなので、そこで勝負したら負けてしまうと思う。

したがって、それ以外の何か個性的な子育て施策や学校教育など、そこをきちんと言っていかなければ駄目だと思う。それが全く記載されていないのは確かに実情だと思う。ただ、今すぐこのプロジェクトを提案、ここ入れ込むのは難しいとしても、せめてそういうことを考えていく場を設けますなどといったことが入り込んでいいのではないか。(会長)

- 重点目標の1は非常に大切なところ。私はNPO法人で乳幼児のところに重点を置いて活動し、子育て支援に関わっているが、子どもにとっても大事なものは睡眠と遊びと食と言われている。質のいい睡眠があって、戸外でたくさん遊べて、それから親から適切な食事を与えられてというところを保っていくことが、その後の教育につながっていく。妊娠期からはもちろんだが乳幼児の時期が非常に大事である。

お母さん達のニーズとしても、遊び場が欲しいと言われる。本当に安心して遊べる場が欲しい。理想は、地域全体がどこに行っても遊べるというような、大人達がウェルカムで、「ここで遊んだら？」と言えるくらいの公園や、ここは親子で遊べるというようなものが理想なのだが、なかなかそこにたどり着かない。今まで、もう少し遊び場や公園を、などと意見を言ってきたが、実現できる範囲で書かれてある。

これから子ども達のためにこうしてあげたいというところに希望があるので、町として宇美町らしさを出すには、自然の中で遊べるようにします、食育を学校現場でも保育園でも(他の)どこかでも食を大事にします、時代に逆行するが給食は自校式を目指しますといった(ことなど)、言い過ぎだが、それでも本当に大事にしようと思ったらそこではないか。

これを一番先に重点施策、基本目標で持ってくるとしたらやはり食と遊びと睡眠と、そしてこれをするためには保護者の安心感のようなものも必要ということで、もう少し踏み込んで宇美町

らしさが出たらうれしい。とても分かりやすくなり親しみやすくなっているが、大人が子どもにとっての遊びの大事さを考えれば子どもは変わる。本でも読んだが遊びが最重要課題だと、そして遊びができれば体力もついてスポーツにもいける。本当にここが最重要課題で、ここをやってあげる。

高齢者の方も、子ども達がいきいきと遊べたら生き甲斐になる。子どもが元気に育っているといたことが地域でたくさん起これば、町に希望がある。やはりここ基本目標で宇美町らしさが一番出るところだが、文言的には当たり障りなく書かれている。そこを考えていただけたらうれしいと思った。(委員)

- 何度もこの論点をご指摘いただいたが、この子育ての部分で「遊び」という言葉はやはりきちんとどこかに入ったほうがいい。ただおっしゃるとおり、この遊びが最近皆さんご承知のとおりテレビゲームなどばかりになってしまった。だが、昔の子ども達は皆で遊ぶ。だから年長の子が年少の子をきちんと見守っていたつながりができたりということもあるし、もちろん、いろいろな遊びをする中で体を使うからその後のスポーツなどにもつながっていく。そういったものが失われてしまっていることによって、本当に例えばボールを投げるという行動自体ができなかったりするといったことが結構多い。

方向として、遊びというものをもう少しここの中で強調してみるというのは1つの手なのかもしれない。施策としてどこまで推進するかはともかく、少なくとも遊び場というのは他のところにも出てきたと思うので、やはり遊びの推進ということは一言、施策の方向性などで挙げていただいてもいいのではないか。そこはかなり個性につながっていくのではないかと思っている。例えば、地域によっては自分の庭や自分の空き地のような所を提供してもいいという方もいらっしゃるかもしれない。ただ、その時にそこでもし怪我があったらどうするのか、責任は取れない。そこで、そうした部分はきちんと行政のほうでカバーする、何かの時は町の方も見守りするから大丈夫、といった形で、子育てや遊び場を応援するようなサポーターのような仕組みを設けてみてはどうか。昔の遊びはかなり失われてる部分があって伝わっていない。そういうものを、例えば高齢者の方々も思い出していただきながら子どもに教えていただくなどというような、子どもだけではなくお年寄りも一緒になりながら皆で子育てをしていくといった仕掛けが一つの個性として重要だと思う。ぜひご検討いただければと思う。(会長)

- 先日資料をいただいて、まず目に付くところは27ページ。6番の「教職員の働き方改革の更なる推進」という項目だが、教職員の長時間勤務は以前から大変問題になっていて、部活動の指導・教育をされる教職員の方が少ないという話を常々聞いている。そうした中で、スポーツに長けた子ども達が糟屋郡の他町に比べたら少ないような気がする。例に出すとどうかとは思いますが、篠栗町辺りなどはスポーツ指導に関する教育が徹底されている。したがって、子ども達も優秀な記録を出す子ども達が出てきている。宇美町をどうするかということだけでも、「部活の地域移行に関する検討を継続して実施します」とあるが、これで果たして目的が達成できるのか。もっと具体的にどうする、こうするというをここで入れていただきたい。先日学校関係者の方とお話しする機会があったが、その方も、どうしてもクラブ活動の面倒を見る先生が少ないとおっしゃっていた。スポーツで関わった人が感じるころは、スポーツ活動が少ないのではないかと。これでは優秀な選手は出てこない、篠栗町に比較して、そのような気がした。今後に関しては、もう少し具体性を持った展開をお願いしたい。(委員)

- この点は今現在のどの程度議論が進んでいるのかということも関わってくるが、事務局はいかがか。(会長)
- ➔ 学校教育分野になるが、部活動の地域移行という言葉すら計画策定当初には出てきていなかったと思う。当然、審議会等でご意見をお伺いして、やはりこの文言は今後のことを見据えたいので入れないといけないということで、学校教育部門とお話しして入れたという現状にはなる。どの程度まで進んでいるかというのは、正直事務局でも正確に把握しているわけではないが、今のご意見を踏まえて、少し学校教育課と検討し、表現については会長と調整をさせていただきたい。(事務局)
- まず書きぶりとして、「部活動の地域移行を着実に進める」という文言に変える。ただ、具体的にどういう方向性でいくのかということについて、検討が進んでいないとすると、そこは、まだ私どもが方向性まで決めてしまうといけないかもしれないが、着実に移行するということは書いておかないといけない。「検討を実施します」では駄目だと思う。地域移行をめぐるどのような議論になっているか分からないが、元プロ選手などでも、なかなかセカンドキャリアがないということもあって、人材はいろいろとある。そういった人材をマッチングしていくようなシステムを国として設けるといような話もあったような気がする。ただ、部活動を強い部活動に進めていくという方向と、みんなが楽しめる部活動にするという方向と様々であろうから、そこは現状を見ながら考えていく必要があるだろう。

ただ、「着実に実施する」と書いておけば当然そこは検討せざるを得なくなってくるので、一定の方向性を出さざるを得なくなる。「部活動の地域移行を着実に実施する」と、ぜひお願いできればと思う。(会長)
- スポーツについてだが、中学校で存分にスポーツ活動を楽しむ、あるいは体力を伸ばしていくためには、小学校の体育の質が問われると思う。そして小学校教育では、体育にしる美術にしる家庭科にしる音楽にしる、専門家がなくなった。以前の大学のカリキュラムでは体育科コースや美術科コースがあったが、今はもうなくなってしまった。そういった意味で、宇美町以外にもいろいろな小学校、中学校に行ってみるけれども、教員がもう単一化されて子どもの素質を伸ばせない。やはり、小学校にも地域のスポーツに堪能な方や、音楽でも何でもいいのであろうがどんどん取り入れて、音楽は素晴らしい、サッカーは楽しい、ラグビーは楽しいという感覚を小学校で十分養っておけば、中学校で自分の適性や好みに合ったものに入ると思う。だから、中学校の部活ももちろんあるだろうけれども、これを具体化していったらやはり小学校の時から「知」「徳」「体」の感性を育てようというような具体化が見えてくるのかと思う。中学校では遅いと思う。

私が今関わっている中学校は宇美町ではないが、もう鉄棒もできない。そして、ボールも取れないという状況にある。部活に入っている子はましであろうが、部活などの経験がない子は体育的な技能が全くないまま高校に行く。そういった人がまた大人になった場合、子どもに指導ができないような負の連鎖が起きる。スポーツならスポーツで、そのスポーツに焦点を当てたらどういった地域の関わりが必要か、小学校でどのような教育やカリキュラムが必要なのかまでは計画には表せないと思うが、そういったスタンスで行政の方や役場の方やっていく必要があると思った。(委員)
- 31 ページでスポーツの話がある。「スポーツをはじめのきっかけとして、子どものスポーツ活

動を推進し、町のスポーツ関係団体との連携を図りながら、幼少期のスポーツ環境を整備していきます」とあるが、これだとどちらかという小学校よりもさらに前段階というイメージがある。ここをもう少し工夫していただいて、幼少期に限定せず「小学校、中学に入る以前の段階から」といった表現などにしていただきながら、そして、今のご指摘で重要なポイントは、町のスポーツ関係団体はもとより、地域に実はいらっしゃるであろう専門家のような方々との連携ということだったかと思うので、地域にいらっしゃるそういった人材との連携を図りながらということも加えていただくことが重要かという気がした。(会長)

- 専門の方でなくても、例えばスポーツのチームのOBの子たちが手伝っていくというような、コーチまでまだいかなない人たちがいる。そして今、子育て連などは運営が厳しいとお聞きしている。うちの近くの井野区だが、もう子育て連には入らないというご家庭が増え、60くらいあった子育て連に関連する地域団体が40くらい…もう3割くらい減っているか…。(委員)

- 4月から20団体になる。(委員)

- それで、井野区はとて古くから相撲やカルタなどを盛んにされているが、もう大会に出ないということを最近お聞きした。井野区が「大会に出ない」ということに地域の方がびっくりしていたくらいの地区。うちはひばりが丘だが、井野区に行って合同で相撲大会をさせてもらって豚汁を食べて帰ってくるといったことが行われていた。大会に出ないまでも、地域で相撲やカルタなどを教えてくれる先輩、習った子達がいるので少しずつでもそこに教えられる人が入って、OBの子達が教えてくれるといった感じでできるのが理想ではないかと思う。指導者までいかななくても指導者予備軍の子達がいるような気がするので、その掘り起こしを。

計画の言葉をもう少し丁寧に書くと、活動したい人が掘り起こせるような気がしている。例えば学校運営協議会メンバーなども割と同じ地域のベテランの方がなっていて、PTAで活躍した人がなっている形だが、その方々を中心にもう少し掘り起こしてあげたら、「一緒にやらない?」といった感じでできないかと思っている。カルタだったり伝統のものが、せっかく宇美町に脈々とつながれてきているのに、ここが繋がらないともったいない。(委員)

- 例えば、31ページの柱の5に人材の掘り起こしというようなことが入ってもいいかもしれない。スポーツもそうだしいろいろな文化活動もそうだが、以前関わったような方々などをもう1回関わっていただくよう取り組んでいきますというのは、その方法についてはご検討いただくとしても、1つ入っていると横断的に推進できる可能性がある。(会長)

- 小学生でも中学生でも教えられると思う。(委員)

- 31ページの1のところの、「幼少期のスポーツ環境」の「幼少期」というのを書き換えたらどうだろうか先生がおっしゃっていた。私の意見は、学校訪問で中学校を見に行った時に、もう既にもっと前からその原因が起きていて、小学校を見た時にはさらに前から原因が起きているのだということを思った。やはりこの子どもの重要な成長期に、成長に応じた体の動かし方や学習の仕方をさせてきていない。幼少期に体を動かしてきてない。それが、例えば鉛筆の変な持ち方をしたりすることなどに表れているように思う。

それはただ1つの面であって、精神的な面やバランスが取れた発達をしてこないまま小学校になって、整わないまま中学校になってきて、親は依存体質のままというようなことを思うと、幼少期から身体に合ったスポーツをするというようなことは重要なのではないかと思う。

- 私が中学校以前からと言ってしまうと幼少期ということがぼやけてしまうので、むしろ、「中

学校前から“幼少期からその成長段階に応じて”といった言葉を入れ込んでいただくということか思う。(会長)

重点方針1のところの「子育てしやすいまちの実現」というところ。子育て支援が社会的というか、宇美町だけの問題ではなく日本全国と言われるようになってきているが、宇美町をいろいろプロモーションしていこうと思った時に、宇美町は元々ずっと子どもの育ちというか幸せをどうにかできないかと長年願ってきた町だからこそ、やらないといけないということもこの中には含まれてると思う。どうも日本的な社会課題も入っているのではないかとということもあるんで、「子育てしやすいまち」というのは親の気持ちのほうだとは思いますが、地域で歴史的にずっと見守ってきたところもあるし、何回か前に「子どもの育ち」の部分をおっしゃっている話もあったので、この部分に「子育てしやすいまち」という親目線と、子どもの育ちを見守る地域的な目線も入れられたらいいのではないかと思う。「子育てしやすい」と、「子どもの育ちを見守る町の実現」にできないかと思った。親だけではなく地域でも見守れるような町にしていければいいのではないかと思うので、そこが足せないか。(委員)

- 地域の見守り的な部分というのは、関係しそうな記述は多分あるが正面から書かれてはいない。確かに、そこは一つ売りにしていくべきポイントかと思う。何度も申しあげるがこの子育て関係はやはり全国の自治体が取り組んでいて、例えば自治体が家事代行や育児ヘルパーの派遣サービスを行っていたり、あるいは、子どもの医療費助成や学費補助が手厚いということはよくあるパターン。結局何が一番この宇美町の売りなのかというのは、やはり子育てや見守る地域、これは1つの柱となる。それには、親に対する子育て支援というものがあるわけだが、多くの自治体はこちらのほうに結構軸足置きながらPRをしてる感じもする。事務局から見て宇美町の子育て支援の売りはこれだというのはどこにあると考えるか。(会長)

→ なかなか難しい問い。これは事務局としてというか個人的な意見として述べさせていただくという形にはなるが、以前自分が地域の担当をしていたので、やはり地域と学校の結びつきが強いというのは宇美町の大きな特徴かと思う。登下校時の見守りや、学校それぞれの授業に地域の方がよく出向いている。やはり地域の方がそういった学校と連携をしているというのは、宇美町の大きな特徴かと率直に感じる。(事務局)

- だとすれば、そこをもう少しきちんと打ち出したい。コミュニティスクールと言ってしまうと、春日市が有名なのでちょっとぼやけてしまう部分がある感じはするが、遊び場を地域の方々が提供するといった仕組みをさらに加えながら、地域で育てていくというような見せ方をしていくともっといいのかと思う。先ほど申しあげたとおり、施策の方向性として、ぜひそういった重点プロジェクトを考える場をしっかりと設けるということは加えていただいた方がいい。

売りがない、ポイントがないのにそれを売りにして宇美町がいいというように持っていこうとしているということは、矛盾をしているということになってしまうので、宇美町がいいというのがきちんと描けるように、そのプロジェクトをきちんと推進していただくような場を設けるといいのは、あっていいのではないか。(会長)

- 宇美町は子ども条例を作っている。その辺りのことが全然書かれていないのは、もったいない。議会から出た発案で、子どもが権利を主張できるというもので、絵に描いた餅にならないよう、学校が動きやすいよう謳っていかなければ。人権について、男女共同参画も進められているが、子どもからの権利の主張についても。(委員)

- 32 ページの「子どもの健全育成」の部分で、「健全育成」という立場だと少し違和感があるので、タイトルを検討する必要があるかと思うが、子どもの権利というものを尊重して充実させていきますなど、そういうものが入ってもいいのかという気がした。(会長)
- 啓発をし続けたいいけないのでどこかに入れられれば。「学校教育」の部分とはまた違うかもしれない。
- 「健全育成」で「権利」が入っているのはやはり不自然なのでタイトルを変えていただきながら入れ込むなら、ここかという感じがする。この点もやはり、「宇美町がいい」という時の1つのポイントになりうる部分かと思うので、ご検討いただければと思う。(会長)
- 基本目標の5から。61 ページだが、ここに市町村内総生産量というものがあるが、これは全ての産業や観光業を含めて押しなべて出ているのだろうか。私だったら、例えば農業など区分けして載せる。例えばここで「農業生産が減っている」としたら、そこから危機感を持ってもらって、自分達の町の農業を大事にしようといった発想が出るような形で持っていくが、これは内訳は出せるのか。(委員)
- ➔ これは分野別に出るようなデータではない。(事務局)
- 就業人数は出るのか。農業に関わってるだとか商業など。(委員)
- 市町村内総生産量は出るのではないか。元データをたどれば出せるはず。農業それぞれの農業生産量など、これは出る。そのデータは調べていただきたい(会長)
- なぜそういった言い方をしたかという、この15年間で農業の耕作面積はで20パーセントから25パーセント、日本全国で減っている。そのことを住民はほとんど知らない。だから農業に対する意識が低い。農業生産者に対する共感力がないという構造になっていると思うので、ここでそういったことを詳しく言うのではなく、やはり農業に携わる人の人数が減ってきている、もう少し目を向けさせようというような意識付けのために使ってもいいのかと思った。
それからスペースに余裕があれば、農業に関わっている人の姿というか。田植えでもいいし畜産業でもいいし、何かと先ほど言ったように、影で、また目立たないところで支えている人々の一生懸命やっている姿も見せてもいいのかと思った。(委員)
- 一点目のグラフの見せ方については内訳を乗せる余裕があるのであればやっていただいたほうがいい。スペース、空間をどう使うかいうことは、確かにもう少し工夫して考えたほうがいいのかと思う。(会長)
- 基本目標4のところだが、55 ページ。昨年、四王寺県民の森が福岡県でワンヘルスの森に指定された。議会でもしっかりこれを推進していくという決議も行ったことだが、記載が全くないという寂しい状況になっている。県民の森に行くと、いろいろな改革が進んでいる。全国でも珍しい事業で、そこだけだと思う。これを記載したうえで、一緒に県とともに推進していくようなことを記載したほうがいいのかと思うので、ご検討いただきたい。
57 ページだが、「一本松公園の整備」。土日はもう車で溢れ返って大変な状況になっているところだが、ただ整備をするだけでは駄目。行き当たりばったりの整備になってしまうので、まず、私は何回も言っているが専門家あるいは民間企業と一緒に入れた検討会議を行い、しっかり協議したうえで一本松公園をきちんと整理していく。その方向性をきちんと決めるための会議の設置、これをぜひ書いておかないと駄目ではないかと思う。バンガローなどは3年も使っていないポロポロの物がたくさんあるので、この辺りの整備方針などもきちんと検討会議の中で専門家そして

民間の方々を入れて。イメージ是那珂川町のキャンプ場のような感じでうまいこと作ってあげればいいと思う。

基本目標6であるが、75ページの「行政改革のさらなる推進」というところだが、この総合計画が出来上がったうえで、それを基にして機構改革を行うと執行部は言っている。機構改革も適材適所というか、あまり民族大移動のような機構改革をやっても職員が混乱するばかりなので、的確な機構改革をやるといった機構改革の方針辺りをこの中に入れ込んでいただくと、変な機構改革にならなくても済むのではないかと思っているので、そこを最後にぜひ検討していただけたらと思っている。(委員)

○ いずれも、ごもっともかという感じはするが、最初の55ページの部分は、結局ワンヘルスの森が1には入ってこないし2にも入ってこないから、やはり新しく項目を設けないといけないということだろうか。(会長)

○ せっかくのことが全く記載がないというのは寂しいと思う。町は何もやらないのかという感じになっているので、ぜひご検討いただければと思う。(委員)

事務局にてご検討願う。(会長)

○ 55ページ、「森林の荒廃防止と環境整備」の部分で、「整備が必要な対象森林所有者の基本調査を行い、県の補助を活用した整備を進めます」という施策の方向性がある。これを見ながら、次のページ「土地利用と公園の整備」の「一本松公園の維持管理」で「三郡山系への登山道の利用で町外からの利用者も多く集まります」とあるが、私は山歩きが好きで、「三郡山に行きたいけれどもどうしたらどう行ったらいいか」という相談を実際に町外からも多く受ける。宝満あるいは若杉、四王寺山などもあるが、三郡山は登る登山道が4箇所か5箇所ある。そうした中で、登山道の整備という問題で意見を聞きたいと思っている。三郡山の山道は宝満から若杉に至るまで縦走路があり、縦走路はきれいに整備されている。ところが稜線に出る登山道は、丸太で製作された階段や、危険な水路際、登山道がえぐれてこれは危ないという箇所が何箇所もある。

その丸太で作られた階段などを見てみると、もう20~30年手が入っていない、工事もされていないというようなところがある。「県の補助を活用した整備を進めます」ということだが、同じ森林の中を歩く登山道は整備の対象とならないか。これを町の予算で実施しなければいけないとなると、大変な費用が発生する。県の費用は利用できないか。

四王寺山は町の予算ではなく県の予算が入っている。また、宝満山は筑紫の市の予算が入っている。そして、若杉山に行けば篠栗町の予算が入っている。残念ながら、宇美町の三郡山だけは予算が少ないという気がする。というのは、はっきり言って、整備の仕方が雑にみえる。まちづくり課の方は実態をご存知ではないか。(委員)

○ 質問してもいいか。山に登るのにガイドボランティアのような方などはいらっしゃるのか。(委員)

○ 宇美町はガイドボランティアはいない。話があれば個人的にお受けしている。(委員)

○ いい所だったら、登りたくてガイドさんを頼みたいという方がいらっしゃるかと…。(委員)

○ 私は山の会にいますので、連絡をいただけたら同行できる。同行する中でこれは危ないと思うような所が何箇所かある。今度まちづくり課の皆さんのどなたかに現実を見て、比較していただけたら違いが分かるのではないかと思う。(委員)

○ まず今の55ページの森林荒廃というのは、やはり「個人が所有している山」が荒れていて、

いろいろな災害などにつながってしまっているといった話に対する話なので、むしろ今のお話だと関係しそうなのは観光の部分ではないかと思われる。それでいくと 63 ページの施策の方向性の 5 といったところが関係するのかなと思う。まず、そちらの山の所有関係というか、町の関わり具合がよく分からない部分があって、管理主体がどこなのかということがまずよく分からないところ。もしかしたら県といったことなのかもしれないが、いかがか。(会長)

- ➔ 山林自体が県の管轄と国の管轄と町と。一本松公園自体が民地もあるような状況。(事務局)
- 登山道のほうはいかがか。(会長)
- ➔ 登山道の所有関係は様々。(事務局)
- その辺りの課題があるようだが、あり得るのは歴史・文化・観光施設などがあるが、ここに何か一言、自然の風景や山や海といった、このところに一言文言を加えていただいて足がかりを残しておいていただけるといいのではないか。「周遊性を高め、町内経済の活性化を図る」という部分で、今の登山のようなものも含まれるような形で言及していただくといいかという気がする。(会長)
- 他に意見は。(会長)
(意見なし)
- それでは、ご意見については以上とさせていただいて、最後の時間は、せっくなのでこの間の審議会における感想というか、最後に思いを一言ずつ頂戴したいと思う。(会長)
- 計画の中に重点方針がきちんと明記されたというのは、とてもよかったのではないかと考えている。中でもシティプロモーション、そしてデジタルトランスフォーメーションと、本当に町が課題にしていることが一番前面に出てきたと思っている。ありがたいことだと思っている。(委員)
- このたび審議会に参加し、最初のほうは割と自由に発言できるが回が進むに従って、なかなかより高いレベルの発言が求められているというところが、勉強が非常に必要になってくると思った。まちづくりというのはいろいろな方面から物事を考えていかなければならないということで、私自身もあまり得意ではない分野のことも、これで改めて自分がどういう分野にあまり明るくない、詳しくないといったことがよく分かった。
審議会そのものは今日で終わりということだが、計画はいかに実行するか、これから本番だと思うので、この素案についてはたびたび読み返して常に検討して、新しいまちづくりはといったような視点が必要で、こういった考え方をしていくべきなのかというのは、常にこうやってこれから先もずっと考えて勉強続けていきたいと思う。(委員)
- 今回、初めて総合計画の審議会に参加させていただいて、たくさん意見、また視点をお聞きすることで自分自身勉強になった。また、重点方針ができたことでこれからの宇美町の方向性と、また、総合計画の内容が決まったことでさまざまな課題がこの町にあるとうところを意識しながら、この課題が 1 個でも解決できるように自分自身当事者として頑張っていけたらと気持ちができてきた。(委員)
- 計画には載せられないとは思いますが、これを配布する際に町長の言葉でもいいしこの委員会総代の言葉でもいいと思うが、未来は明るく考えるのはとても大事だと思う一方、現実はそうではないというところをふまえておかないと絵に描いた餅で終わるだろうと思う。教育についても、教師崩壊や学校崩壊や不登校など厳しいところがある。また、経済的にも落ち込んで日本だけが

給料が伸びていない。そして少子化、1人親の貧困がたくさん出ている。

そこをふまえて、どこかに入れる。プラス1ページに載せないと本当にこれが生きてこないと思うので、あとは事務局の創意工夫で、皆さんの熱い思いが伝わるような工夫をされたらと思った。(委員)

- 総合計画を拝見させていただいていると、この資料を作り上げられるまでにはまちづくり課の皆さんも大変だっただろうと感じる。とはいえ、中身には「この文章は…」と思うようなところもある。今後さらにいいものを作り上げられるようお願いしたい。書いたことは後になってあれはどうなったかと聞かれることもあるかと思う。ぜひ、実行に向けて頑張っていたきたいと、そのように考える。(委員)
- 総合計画は皆さんのいい意見をよく取り入れて、事務局も取り入れてくれて素晴らしいものができたと思う。あとは実践をしていただきたい、実践、評価辺りをきちっとしていくことが大事なことではなかろうかと思っている。(委員)
- 私は会長からお渡しいただいた自治体職員の働き方についての資料を読ませていただいて思ったのが、解決策というのは原因を1つずつつぶしていくというようなことや、目的や目標、ターゲットをちゃんと持つというようなことを、進めていく職員の人達が皆自覚して、今までどおりにやっていくという時代はもう終わったから、職員それぞれ皆さん優秀な方々ばかりなので精一杯やってもらいたいと思う。そして、町民の方々からいろいろ強い意見が出てきた時には、町全体でその職員をかばってあげられるくらいのバックアップをしながら、このできたもの(計画)を皆で進めていってもらいたいと思うし、私自身、協力していきたいと思った。(委員)
- 会長に委員長をしていただけて、また今までとは違った会議の雰囲気だったかと思う。本当にこだわって作ったものが生かしていくということが実現できるのではないかというわくわくした部分もあった。私自身も思いがあってもうまく表現できていない意見も多かった。何点か著書で非常に参考になっている先生方がいらっしゃるが、その中で『社会で子どもを育てる』という本を書かれた武田信子先生が、大変なことは多いけれども、大人が希望を持って語り合うことである子ども達が健やかに育っていけるということを書いている。

ハード面が整わなくてもソフト面でカバーできると思う。役場に行った時に、役場の女性の方々がとても丁寧に最近対応して下さるが、そういうことかと強く感じる。役場の方はもちろんだが、住民福祉センターの警備、体育のところで管理をされている方々もとても丁寧に対応して下さる。やってみたいと思う人がやれるようなことが、いろいろなところで起きれば、とてもいいものが生まれてきたりするのではないか。アイデアを出した人を、何を言っているのだとそこで蓋をするのではなく、「そういう考えもあるね」と周りの人が拾ってあげられるような、そういうアンテナを持った人がたくさんいることで、またとてもいい町になっていくような雰囲気を醸し出すというか、そういうものがあたらいいかと思う。

子育てについてグラフには「子育てを楽しんでいる」という表現があったが、楽しいばかりでは絶対はない。現実には大変なことも多いけれども、大変なことを負担に思わないで済むような、いろいろな人が関わることで負担に思わなくていいようなものになったらいいのかと思う。本当に素晴らしい計画ができていると思うので、あとは実施される役場の方々が大変なのだが先導していただいて、町民がうまく関われるようなまちづくりになったらいいかと思った。(委員)

- 計画には、まだまだ足りない部分があると思っはいる。道半ばではあるが現段階でできる中

での一番いいものができたと思っている。これはやはりまず皆さんが活発にご議論いただけたということが一番大きいと思う。そして、その思いを事務局がしっかり受け止めてくださった。原課との関係ではつらい思いをされたと思うが、本当にお疲れさまだった。まだ終わっていないが、あと、以前申した朝来市のように分かりやすいパンフレットのような物を作っていただくと、これがもう少し町民にも広がっていくのかと思うので、パンフレット作りのようなことも意識していただきたいと思っている。

先ほどまだ道半ばだと申しあげたのにはいろいろな意味があるが、これまで総合計画は作っておしまいだった。なぜ作っておしまいになるかという、今やっていることを並べたててそれらしい抽象的な目標を作って、さらにそれをまとめたような極めて抽象的な町のイメージが語られていた。そして、結局何も変わらないという状況の計画ばかりだった。今回はそこを変えようというところからやってきて、残念ながらまだまだ道半ばという状況である。目指した方向は、今やっていることからスタートするのではなくあるべき姿からスタートする。

あるべき姿を具体的に描きつつ、そしてこの時具体的に描くためにはもっと先進地域の勉強をしなければいけない。子育て政策であれば、他は何をやっているのかということをもっと勉強しないと、あるべき理想像が描けない。そこ今今の宇美町とのギャップをきちんと明らかにする。では、このギャップを埋めるということが課題となる。そのために何が必要なのかという視点から政策を組み直していくという、このあるべき姿と現実とのギャップを描いてそこを埋めるために何をやるかを考えていくという、この思考パターンを植え付けるために今回の総合計画があったはずであるが、残念ながら、その肝心の政策、施策事業の見直しという部分は結局できないまま、やはり今やっていることを中心としてやってしまったので、そちらに引っ張られてしまっている部分がある。そこは残された課題なので、次のこれからの5年間くらいの間にそこをしっかりとやっていただくということが、当面の課題になる。だからこれで終わりではない。むしろこれがスタートであるということは肝に銘じていただきたいと思っている。皆さんにも、ぜひそういう思いで行政に対してきちんと見ていただきたいと思っている。

究極的にはこの宇美町の総合計画は、行政計画ではなくまさに自治体全体の計画になっていくべきだと思う。行政が何をやるかというだけでなく、この宇美町という町を作り上げていく時に行政は何をやるのか、地域の団体、コミュニティは何をやるのか、商工会は何をやるのか、あるいは消費する個人は何をやるのかという形で、皆が役割分担をしながらこの宇美町を作り上げていくような、本当の意味での総合計画にいずれはしていかなければいけない。そこまではまだ遠いが、一歩ずつ着実に進んでいくしかない。そして、今回その大きな一歩を踏み出したのかと思っている。

あともう1つ、今回できれば若干加えていただければと思っていることは、私は、今回これはお世辞でも何でもなく思っているが、ここの審議会に集まってくださったメンバーの方々だけ見てもとても面白いと感じている。私は、その地域が面白いかどうかは、結局そこに住む人々が面白いかどうかだと思っている。いろいろな面白い人達がいらっやあって、その人達ももっともっと活躍できて、そしてそれに釣られて面白い人がどんどん増えていって、やりたいと思う人がやれる仕組み。例えば今私は福津のほうに関わっているが、福津は未来共創センターというものを作っていて、何かをやってみたい若者、若者でなくてもいいが、その人達をバックアップして実現していくような講座を展開している。こういった人達と地域を結び付けて地域を活性化し

ようとしていたりする。

そういうやってみたい人がやれる仕組み、そして小さな成功をあちらこちらで皆がしていくと、地域の熱が高まっていく。そうやっていくといろいろな新しい動きが出てきて、この町全体がエリアとして面白くなっていく。エリアとして面白くなってくると、いろいろな所から人がどんどん来るようになっていく。そういう楽しい面白いわくわくするようまちづくりの部分が、もっと全面的に出たほうがいいのかという感じがしている。柱の6番目か、その部分をもう少しそういうニュアンスが出るようにしていただくといいかという気がしている。

しかし、そういった残された課題はあるにせよ、何度も申しあげるのが現段階においては最もよいものが出来上がったと思っている。皆さまのいろいろな思いが私自身にも非常に響いたし、事務局にも響いたかと思ってる。これでおしまいではないと申しあげたので、引き続きこの町のためにご尽力いただければと思っている。(会長)

4. 閉会あいさつ

- 嶋田会長におかれては議事進行誠に感謝申しあげる。委員の皆さまにおかれても、活発なご意見を賜り誠に感謝申しあげる。これまでの8回の審議会において、嶋田会長をはじめ委員の皆さまのご協力もあり、よりよい計画になっていると思っている。委員の皆さまからも出ていたが、計画を策定しただけではなく、計画を実行しこの町がいいと選ばれる宇美町を目指し、住民と職員が一丸となって取り組んでいけるよう努めてまいるので、今後ともご支援ご協力をどうぞよろしくお願ひしたい。(事務局)

以上